

令和4年度 学校評価シート（自己評価）

令和5年3月

文京学院大学文京幼稚園

1. 園の教育目標

- ・誠実（いきいき元気に遊ぶ子）
- ・勤勉（いっしょうけんめい頑張る子）
- ・仁愛（やさしく助け合う子）

2. 具体的な目標や計画（令和4年度重点目標）

1. 健やかな心と体を育む。
2. 身近な環境に主体的に関わり、活動を楽しむことを通して“豊かな心”を育てる

3. 評価項目の取り組み及び達成状況

評価項目	結果	結果の理由（教員の記述より抜粋）
1 - ① 自分で自分の体を守るために必要な生活習慣を理解し、進んで行えるようにする。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢に合わせて、取り組む事の必要性を丁寧に伝えるようにしてきた。 ・視覚的に生活習慣が理解できるよう環境を整えた。 ・教員自身がモデルとなるよう、子ども達の前で取り組んだ。 ・獲得できた習慣や、進んで取り組んでいる子どもの姿を認める声かけを行い、次への意欲を育てよう心掛けた。
1 - ② 遊びの中で十分体を動かし、年齢に適した体力や身のこなし方を養う。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な集団遊びを取り入れ、体を動かす楽しさを十分味わえるようにした。 ・体を動かす様々な遊びに参加してきたことで、子どもが身のこなしを少しずつコントロールすることに繋げることができた。 ・教員自身が多様な運動機能を意識した活動の提供には課題が残る。 ・個人差に対応することが難しかった。
1 - ③ 自分の心を素直に表し、必要に応じて感情を調整する力を育てる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを受容し寄り添うことを心掛け、子どもが自分の気持ちを表出できるようにした。また、その気持ちを言葉で表現していけるよう援助してきた。 ・感情の調整をするためにはどうすればよいのか、一緒に考えるようにした。ただし、子どもにより個人差も大きく、配慮が難しい子どももいた。
2 - ① 色々な遊びを楽しみながら、自分なりの満足感や達成感を感じられるように環境を工夫する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの興味関心を捉え、満足できるまで継続して遊びや活動が行えるよう環境構成に取り組んだ。 ・繰り返し取り組むことや、興味を持った子どもが途中からでも参加しやすいよう環境作りに配慮し、仲間と遊び込めるようにしてきた。 ・イメージが形にできるよう、子どもと一緒に材料を考え準備をした。
2 - ② 体やものを使って、自分が感じたままに表現する喜びを味わえるようにする。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの表現や感想をそのまま受け止め、共感していくよう心掛けた。 ・一日の中の様々な時間を活用し、身近な動物になることを楽しめるよう取り組んだ（年少）手作りの楽器遊びを通し、音を使って表現する心地良さを味わえるようにした。（年中） ・個人の表現を認めながら、他者の表現にも興味を持ち、様々な表現があることにも気付けるよう配慮してきた。 ・自己を表現することに緊張してしまう子どもに対して、あらためた場ではなく、その場で思いついたものを表現できるような雰囲気作りを心掛けた。
2 - ③ 自ら「描いてみたい、試してみたい」と思えるよう、描画活動の教材や環境を工夫する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・評価をせず、感じたままを描くことを大事にしてきた。 ・様々な技法や描画活動を、子どもの興味関心に合わせ準備し、何時でも取り組めるよう環境を整えてきた。 ・遊びの中で子どもが描画道具を準備から片付けまで自主的に扱えるよう環境を設定してきた。（年長） ・参加しない子どもには、友達の作品を目に付く場所に展示し、全体での集まり時に知らせ、興味関心が持てるよう工夫してきた。 ・好きな遊びの中で取り組むことが中心となり、子どもにより体験の差があったように思える。（年少）

4. 教員自己評価結果及び本園の今後の課題

	項目	結果	評価結果及び課題（教員の記述より抜粋）
1	保育内容の工夫	A	<ul style="list-style-type: none"> 言葉での表現を豊かにするために、自分の伝えたいことをクラス内で発表したり、間違い探し等の遊びを取り入れたりすることを通して、相手に伝える体験を繰り返してきた。 興味を持った遊びを繰り返し挑戦できるよう、教員自身が一緒に遊びながら共感したり、励ましたりしていった。
2	環境構成の工夫	A	<ul style="list-style-type: none"> 世話をしているカメの体長や重さ、飛行機飛ばしの飛距離、夏野菜収穫時にその背丈を「測る（量る）」という行為や、疑問に思った事柄は図鑑で調べるといった、子どもから発生した疑問を知的好奇心の芽生えと捉え向き合い丁寧に対応してきた。 2クラスの共有スペースを活用し、自然物を使って描画技法を体験したり コラージュや楽器作りを行ったり、と子どもの豊かな表現に繋げていった。
3	幼児への対応 (幼児の理解)	A	<ul style="list-style-type: none"> 子ども一人ひとりをよく観察し、好きなこと、苦手なこと、課題等を分析し、個別の支援をしていった。 学年教員と情報交換しながら、個や集団への理解を深めていった。また、良さを認め自信が持てるようにし、課題にも取り組めるよう援助していった。
4	保護者への対応	B	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から声を掛け、子どもの育ちや頑張ったエピソードを伝え、話しやすい雰囲気心を掛けていった。 (年中長は) 登園時は子どものみで保育室まで来ることや、降園時は習い事等で保護者と顔を合わせる機会が少ないからこそ、降園時連絡では、活動の内容を伝えるだけでなく、その活動に参加している姿や見られる育ちを伝えるよう努力した。
5	研修と研究	A	<ul style="list-style-type: none"> 園内研究では、継続して取り組んできた「教育課程」は、実際の作成に着手し進めている。一方で「保育ドキュメンテーション」を研究に取り入れ意見を活発に交わすことを通し、自身の保育観を広げると共に、他学年（他クラス）の保育の理解を深めることができた。 研修では、昨年同様、各教員がリモート等での研修に参加すると共に、全体では夏に救命救急講習を、冬に本園育児カウンセラーの先生による研修に参加し研鑽を積むことができた。
6	安全管理	A	<ul style="list-style-type: none"> 固定遊具や園舎内、保育室の不具合が生じた際には、速やかに適切な対応を心掛けてきた。 園庭内のスピーカー及び園内の放送器具を新設し、緊急対応等にも万全を期すようにした。(年度末には照明器具の改善、防犯カメラ設置予定) 東京都集中的検査を利用し、週2回の抗原検査を実施し、教職員の健康状態の把握に努めた。
7	職場環境 学年チームの関わり	C	<ul style="list-style-type: none"> 学年の仕事については、学年教員と優先順位を考え取り組み、時間を有効に使うよう心掛けた。 新任教員に対し、学年を越え、気軽に聞けるような雰囲気作りや自分から声を掛け、気に掛けていくよう努めた。 仕事に対する時間の掛け方には、教員により個人差があり、足並みを揃え連携していくことには課題がある。限度（最適な）見極めて仕事を選別していく必要がある。

○結果について

A	十分達成されている。
B	達成されている。
C	取り組まれているが、成果が十分でない。
D	取り組みが不十分である。

5. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者アンケートの結果と、教員各個人の自己評価から、おおむね目標は達成できていると考えられる。「重点目標」を達成するための具体的な取り組みについては、1年間意識を持って取り組み、効果が顕著に表れていた。 ●重点目標の「豊かな心」を育てるための具体的な取り組みについては、描画、劇遊びといった表現に留まらず、多様な表現体験を取り入れていった。子どもの些細な発言や遊びの中に「豊かな心」の育ちを捉える教員の姿勢が感じられた。心が動いた時にその思いを表現できるよう、子どもの発達段階に合わせ、主体的に取り組める環境作りを工夫していた。 ●「保育ドキュメンテーション」の園内研究については、キャリアに関係なく活発に意見交換し、自身の保育観を広げられたと共に他の教員の保育運営について共通理解を持つことができた。参加した教員の多くが手応えを感じている。 ●保護者対応については、コロナ禍により休止していた降園後の「ゆとりの時間」が再開されたことにより、その時間を利用し、保護者とコミュニケーションを図ることが可能になった。しかし、学年によっては登降園時に顔を合わすことができないことが続く保護者があり、コミュニケーションの取り方に課題を感じている教員もいる。 ●職場環境について、継続して取り組んでいるものの、働き方が改善されない。単に仕事量を減らすというのではなく、質も担保しつつ、教員のワークライフバランスを確保するために、「カリスマ的に取り組める教員」ではなく、仕事の適切な限度ライン（どの教員でもやり遂げられる）を意識し、実践していける教員集団を組織する必要がある。

6. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
① コロナ禍前の保育活動について見直す。	<ul style="list-style-type: none"> ・約3年間続いたコロナ禍により、その前に行っていた行事や保育活動が中止されているものがある。1年毎にどこまでの実施が可能なのを見極め、前進はしてきたが、「宿泊保育」などについて、無理なく実施可能にする方法を検討していく必要がある。
② 「豊かな心」が育つために、さらに保育活動を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> ・表現については、日常の遊びや活動の中で、体を使って表したり、ものや道具を使って描いたり作ったりする（絵の具を使っての描画）など、様々な工夫が見られ、豊かな心を育てることに繋がっている。引き続き取り組んでいきたい。 ・園の財産として「紙芝居」を新規購入しているが、年中長組では活用の機会が少ないのが現状である。紙芝居研修で「子どもとの愛着関係が築かれる」と学びを深めた教員も複数いたため、読み聞かせの機会を意識していく必要がある。
③ 幼稚園の魅力が外部の方に伝わるように様々な方法を試行する。	<ul style="list-style-type: none"> ・これから入園を検討する家庭に対して、文京幼稚園の魅力が伝わるように、新しい取り組み「ここにこタイム」（プレ幼稚園&ミニ説明会）を開催する。他にも幼稚園に対して、どのようなニーズがあるのを知り、可能な内容は園運営に取り入れていくようにする。
④ 園内研究と、個々の研修に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育課程作成」は園内研究で継続して取り組んでいく。 ・自身を高めるための研修は、各々が学びたい内容を選択し、知識を深め、保育の質向上に繋げていくようにする。
⑤ 預かり保育を充実させていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・「預かり保育」は仕事を持つ母親が増えていることによるニーズだけでなく、子どもを安心安全な場で遊ばせたい、母親の用事の際に園に子どもを預けたい等ニーズが大きくなっていることが現状である。令和5年度から午前保育日や長期休み中の預かり保育を拡大していけるよう改善を進めていく。